

<p>知って欲しいこと</p>	<p>こんな配慮をお願いします</p>
<p>《障がいの特性など》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がいは、耳が聞こえなかったり、聞こえにくい障がいです。また、聴覚障がいのある人の中には声を出して話すことが出来ても全く聞こえない人もいます。 ・聴覚障がいのある人の中には、補聴器を使うことによりある程度聞き取ることができる人もいます。 ・言語障がいは、言葉の理解は支障はないが、発声が困難な障がいです。 <p>《困っていること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●周囲に気づいてもらえないことがあります。 外見では分かりにくい障がいのため、周囲の方に気づいてはもらえないことがあります。特に中途失聴の場合は、話せる方も多く、「挨拶をしたのに無視された」などと誤解をされることがあります。 失聴した年齢時期、障がい程度などによって聞こえ方はさまざまです。 また、発声が困難というだけで、言葉の理解や聴力にも障がいがあると誤解されることがあります。 ●音によって周囲の状況を判断することができません。 主に目からの情報を頼りにしており、放送や呼びかけ、自転車のベルなどに気づかないことがあります。 ●コミュニケーション方法を間違われる場合があります。 聴覚障がいのある方とのコミュニケーションの方法は、「手話」「筆談」「口話」などその方なりの方法があります。 ●会話が困難なため、情報を得られないことがあります。 「聞こえないため、教えてもらえずできない」ことも多くあります。 ●会話が困難なため、不便さを伝えることが困難です。 言語障がいのある場合は、知りたいことを質問できない不便さが理解されず、日常生活にさほど不自由していないと誤解されることがあります。 ●「聞こえないからできない」のではなく、「聞こえなくても教えてもらえればできる」ことが多くあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションの方法を確認しましょう 会話の方法が適切でないと話を伝えることができない場合があります。その方の会話方法を確認しましょう。難聴や中途失聴の方には、要約筆記が望まれます。 また、連絡手段として、ファクシミリや電子メールを活用することも必要です。伝わりにくい場合があっても、あきらめず、伝える努力をしましょう。 ◆筆 談 互いに文字を書き、意思を伝えあいます。もっとも手軽な手段です。 ◆口 話 相手の口の動きを読み取る方法です。少しゆっくりははっきりと口を動かして話すようにしましょう。 ◆手 話 手指や表情で表す視覚言語です。聴覚障がいの方の約2割程度の方が使用しています。 ◆代用発声 発生機能を喪失した音声機能障がいの人は、声帯の代わりに食道部を振動させて声にしたり（食道発声）、電動式人口喉頭を首に当てて声にしています。聞き取りにくい場合は、筆談を併用することもあります。 ●音声以外の情報伝達方法を メール、ファックス、掲示板、パネル等視覚を通じた伝達方法を考えましょう。 また、イベント等を開催する際は、手話通訳だけでなく要約筆記も活用しましょう。 ●聞き取りにくい場合は確認しましょう 特に言語障がいのある方への対応は、一つ一つの言葉を聞き分けることが大切です。 分かったふりをせず、きちんと内容を確認しましょう。

<p>知って欲しいこと</p>	<p>こんな配慮をお願いします</p>
<p>《障がいの特性など》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故等による手足の損傷あるいは腰や首、脳の血管等に損傷を受けたり、先天性の疾患などによって生じる上肢・下肢にあるマヒや欠損等により、歩くことや物の持ち運びなど日常の動作や姿勢の維持が不自由になります。 ・病気や事故で脳に損傷を受けた場合には、言葉の不自由さや記憶力の低下等を伴うこともあります。また、肢体不自由の中でも脳性マヒ・脊髄損傷・筋ジストロフィーなど全身に障がいがおよぶものを全身性障がいといいます。 <p>(注)筋ジストロフィー:筋肉が萎縮し、その機能を失っていく病気です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな原因で手や足などが不自由になり、思うように体を動かすことができない障がいですが、移動の手段としては『車イス』や『松葉杖』などを使っています。 <p>《困っていること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車イスを利用していると、十分なスペースがなかったり、ちょっとした段差や障害物があるために、移動することができないことがあります。また、高いところにあるもの、床にあるものなどを取ることが困難です。 ・障がい者用駐車スペースが空いていないため、利用できないことがあります。 ・ATM や自動販売機等、正面向きでは足が入らずに使いにくいです。 ・脊髄損傷の方では、手足が動かないだけでなく、感覚もなくなり、体温調節が困難です。 ・脳性マヒの方の中には、発語の障がいに加え、顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いてしまう（不随意運動）ため、自分の意思を伝えるににくい方もいます。 <p>(注)脳性マヒ:胎児がおなかのなかにいる時から出生直後(4週まで)の間に起きた、脳の障がいによる「運動の異常」を指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べること、飲み込むことが困難な方には、食べ物にトロミをつけたり、細かく刻むなどの加工が必要です。また、外食時にはハサミやミキサーの貸し出しなどがあると助かります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●困っていそうときは、声をかけてみましょう さりげなく声をかけ、どんな手助けが必要か気軽に尋ねましょう。 望まれる方法で対応することが大切です。 ●子ども扱いをしないようにしましょう 言葉がうまく話せない人に対して、子どもに対するような接し方をしないようにしましょう。 ●聞き取りにくい場合は確認しましょう 聞き取りにくいときは、分かったふりをせず、きちんと内容を確認しましょう。 ●車イスに乗っているとき、 後から背中をポンポンと叩いて声をかけてくださることがあるのですが、振り向いたときにバランスを崩し、危険なことがあるので前から声をかけていただくと助かります。

知って欲しいこと	こんな配慮をお願いします
<p>《障がいの特性など》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達期になんらかの原因で知的な能力が年齢相応に発達していない状態であること、及び、社会生活への適応に困難があることをいいます。 ・主な特徴は、「ことばを使う」、「記憶する」、「抽象的なことを考える」などに少し時間がかかります。 ・仕事の手順をすぐ覚えることや、人とのやりとりにはすばやく対応することが困難な場合があります。しかし、周囲の理解や支援によって、一步一步成長していくことができる可能性を持っています。 ・障がいの現れ方は人それぞれで個人差があり、障がいを感じさせない方もいます。 ・ことばや行動の意味が相手にうまく伝わらず、周りから誤解や偏見を受けることがあります。 ・重度障がいのため常に同伴者と行動される方もいますが、障がいが軽度の場合は会社で働いている方も大勢います。 <p>《困っていること》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な会話や抽象的な概念が理解しにくいです。 ・人に尋ねたり、自分の意見を言うのが苦手な方もいます。 ・漢字の読み書きや計算が苦手な方もいます。 ・ひとつの行動に固執したり、同じ質問を繰り返す方もいます。 ・笑ったり、怒ったり、恥ずかしがったり、ちょっと悲しくなるときもあるけど、気持ちは皆さんと同じです。それをうまく伝えることができなくて、分かってもらえないときはつらいです。 	<p>●ゆっくり簡単な言葉で話しかけましょう</p> <p>「一方的に話す」「ひとり言を言う」「同じ言葉を繰り返す」等コミュニケーションがうまくとれません。そのような時は、内容が理解できるようにゆっくり簡単な言葉で話しかけましょう。</p> <p>●やさしく声をかけ、危険であることを知らせましょう</p> <p>「赤信号でも渡る」「車が来ても避けない」「遮断機が下りても線路に入る」等危険が分からない、助けを求めることができない場合があります。そのような時は、やさしく声をかけ危険であることを知らせましょう。</p> <p>●落ち着ける場所に誘導しましょう</p> <p>状況の変化に柔軟に対応できず、「ひっくりかえる」「泣きわめく」「飛び跳ねる」などのパニック行動が起こることがあります。そのような時は、落ち着ける場所に誘導しましょう。</p> <p>●思い込みで判断せず、見守ってみましょう</p> <p>「通行する人を無表情で見ている」「ぴよんぴよん跳ねたりする」「ひとつのことにこだわる」など誤解されやすい行動をする場合があります。そのような時は、自分の思い込みで判断せず見守りましょう。</p> <p>●障がいのある方の目線で接してください。</p>

知って欲しいこと	こんな配慮をお願いします
<p>《障がいの特性など》</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合失調症や気分障がい（そううつ病）などの精神疾患では、幻覚や妄想、不安やイライラ感、ゆううつ感、不眠などが認められます。これらの症状は、薬を服用することや環境が安定することにより、軽快していきます。 <p>一方で、「自発性がない」「集中力や持続性がない」「人付き合いに緊張しすぎる」などの症状が見られることがあり、周囲から怠けているかのように見えるなどの誤解を受けることがあります。しかし、決して、怠けているとか、意志が弱いということではありません。これらの症状は、病気の症状が落ち着いてくる経過の中で認められるもので、これが「精神障がい」といわれるものです。</p> <p>《困っていること》</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合失調症などの多くの症状は、症状が不安定な時期を過ぎると、しだいに回復し、安定していきます。その経過の中では、無気力になったり、集中力や持続力が低下したり、落ち込んだり、疲れや眠気を感じ、ひきこもりがちになるなど、日常生活や社会生活のしづらさがみられます。 	<p>●周囲の援助はどうしたらよいのでしょうか</p> <p>無理な励ましは、本人の過剰なストレスとなることがあります。</p> <p>働きかけは、「具体的に」「はっきりと」「簡潔に」伝えましょう。</p> <p>本人のペースに合わせたはたらきかけが必要です。</p> <p>じっくりと、時間をかけることも必要です。</p> <p>●再発予防も必要です</p> <p>精神疾患では、薬を中断したり、多くのストレスが重なると症状が再発することがあります。再発につながる注意サインを知っておくことも、再発予防になります。</p> <p>不眠がみられたり、急に活動的になったり、ささいなことに過剰に反応するなど、注意のサインとみられる症状を知っておくことも大切です。</p> <p>これらの症状がみられたら無理をさけて、ゆっくりと休養するようにはたらきかけることが大切です。主治医にも早めに相談しましょう。</p> <p>●本人の気持ちを大切にしてください。</p> <p>疾患や障がいに対する正しい理解が必要です。</p>

「バリアフリー」という言葉は「Barrier free」と書き、直訳すると「障壁のない」という意味です。もともとは車椅子利用者などの身体障がい者が生活しやすいように、段差をなくすなど、物そのものを取り除くという意味が強くありました。最近ではその対象を広げ、お年寄りや幼児に対しての「バリアフリー」も考えられるようになってきました。

また、バリア（障壁）については以下の4つがあるとされています。

① 物理的なバリア

- ・段差や階段、狭い道路、和式や狭いトイレ、車椅子の人が買いづらい自動販売機、迷惑駐車・駐輪、点字ブロックのない歩道など。

② 制度的なバリア

- ・「耳が聴こえない」、「知的障がいがある」、「身体が不自由である」、「精神病にかかっている」など、障がいや病気を理由に免許を交付しなかったり、取り消したりすること。

③ 文化・情報のバリア

- ・点字・手話通訳などの情報伝達の欠如があり、文化に親しむ機会が制約されること。

また、外国人で通訳がいなかったり、情報媒体が日本語標記のみであったりすること。

④ 意識（心）のバリア

- ・間違った知識や知らないことから生まれる差別や偏見。障がい者に対する先入観（かわいそう、いつも大変だなど）や無理解から発する言動。他者に対しての無関心。

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサル＝普遍的な、全体の、という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいいます。

【ユニバーサルデザインの7つの原則】

1. 誰でも公平に利用できること・・・・・・・・・・・・・・・・（公平性）
2. 使う上で自由度が高いこと・・・・・・・・・・・・・・・・（自由度）
3. 使い方が簡単ですぐわかること・・・・・・・・・・・・（単純性）
4. 必要な情報がすぐに理解できること・・・・・・・・（わかりやすさ）
5. うっかりミスや危険につながらないデザインであること・・・・（安全性）
6. 無理な姿勢をとることなく、少ない力で楽に使用できること・・・（省体力）
7. アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること・・・（スペースの確保）

「まち」の ユニバーサルデザイン	自動ドア、広いトイレ、足元が広い洗面台、取り出し口が高い自動販売機、絵の入った案内看板、段差のない道路、スロープエレベーターのついた建物、ノンステップバス、電光掲示板、点字のついた券売機
「もの」の ユニバーサルデザイン	サランラップの側面についている凸マーク、シャンプーボトルのギザギザ、テレホンカードの切り込み、点字のついたアルミ缶、電卓や携帯電話の5 についた凸、音声つき家電、テレビやラジオの字幕や文字案内
「こころ」の ユニバーサルデザイン	柔軟な心で一人ひとりの違いを認め合い、お互いに助け合い、支え合い、人のやさしさで暮らしやすい社会を作ることこころのユニバーサルデザインといえます。

側面と上部に施されたギザギザ加工で、目を閉じていても触っただけでシャンプーとリンスを区別できます。



シャンプー容器のギザギザ



ノンステップバス

低床&バリアフリーの車内で、足の不自由な方はもちろん、高齢者の方も楽に乗り降りができます。専用のスロープで車椅子利用者も乗り降りができます。

おつりや商品の取り出し口が高く設計された自動販売機。腰を曲げなくても楽な姿勢で買うことができます。



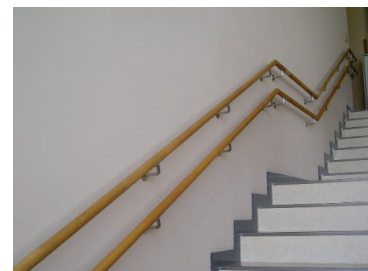
おつりや商品が取り出しやすい自動販売機



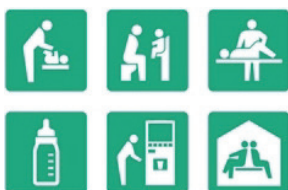
誰もが利用しやすい多目的トイレ

まざなま人の利用を想定してつくられているトイレ。広いスペース、手すり、赤ちゃんのおむつ台など、誰もが利用しやすいトイレです。

高さの違う2段手すりが設けられた階段。背の高い人も低い人も手すりを握ることができます。



高さの違う2段手すり

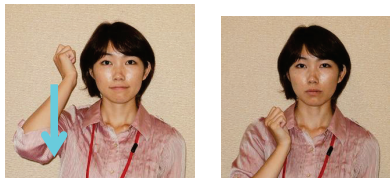


ピクトグラム（絵文字）を用いた案内板

ピクトグラムと呼ばれる絵文字を用いた案内板で、一目でどんな施設か知ることができます。

【おはよう】 朝+あいさつ

【朝】



枕をおろすイメージ
こめかみ付近に当てた右手のこぶしを
すばやく下におろす

【あいさつ】



両手の人差し指を人に見立て、
同時に会釈する

【こんにちは】 昼+あいさつ

【昼】



人差し指と中指を、額の中央
に当てる
時計が正午を示すイメージ

【あいさつ】



【こんばんは】 夜+あいさつ

【夜】



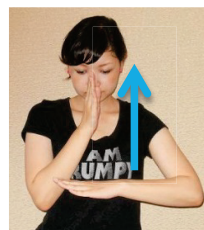
両手の平を前に向け、中央で交差させる
陽が落ちるイメージ

【あいさつ】



【ありがとう】

片方の手のひらを下に向け、手の甲に反対の手にあてる。甲にあてた手を引き上げ、拝むようにする。



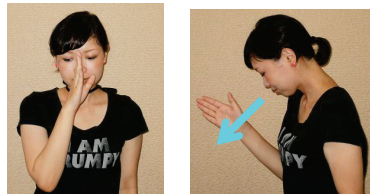
【よろしくお願いします】 良い+お願い

【良い】



鼻の前ににぎったこぶしを前に出す

【お願い】



片手で拝む

【すみません、ごめんなさい】 迷惑+お願い

【迷惑】



人差し指と親指で輪をつくり、眉間にあてる。眉間のしわのイメージ

【お願い】



片手で拝む

あいサポートキッズ学習実施報告書

学 校 名	
所 在 地	〒
電 話 番 号 F A X 番 号	TEL: () FAX: ()
学 習 実 施 日	年 月 日 ()
学 習 実 施 時 間	時 分 ~ 時 分
学 習 し た 学 年 数 児 童 数	第 学年 名
ス ト ラ ッ プ 数 希 望 数	個 〔 報告書を受領した後、学習した児童にストラップを差し上げますので希望数を記入してください。 〕
取 り 組 ん だ 授 業 内 容 活 用 し て み て 気 づ いた 点 や 児 童 の 反 応 な ど	
担 当 者 職 ・ 氏 名	

※報告書の送付は、ファクシミリ、メール、郵送、いずれの方法でもかまいません。

【送付先】

鳥取県福祉保健部障がい福祉課

〒680-8570 鳥取市東町1-220

電 話：0857(26)7157 FAX：0857(26)8136

E-mail：shougai Fukushi@pref.tottori.jp

あいサポートキッズ 学習指導ガイド

発行 平成25年2月

発行者 鳥取県福祉保健部障がい福祉課

〒680-8570 鳥取市東町1-220

電話：0857(26)7157

FAX：0857(26)8136

E-mail：shougaifukushi@pref.tottori.jp